

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501084		
法人名	有限会社 北海道ふれあいの家		
事業所名	グループホームふれあいの家・月寒		
所在地	札幌市豊平区福住1条1丁目9-24 (電話) 011-857-2011		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年2月26日	評価確定日	平成20年4月10日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算	5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000~70,000 円	その他の経費(月額)	11,000~16,000 円
敷金	(有) (家賃の1ヶ月分) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	7名	男性 0名	女性 7名
要介護1	1	要介護2	1
要介護3	3	要介護4	0
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 80歳	最低 70歳	最高 90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏葉脳神経外科病院・日之出歯科診療所
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は住宅街に開設されてから7年が経過し、地域において堅固とした基盤を築いている。大きな民家を改造し、利用者はゆったりと生活しており、広い庭で花の手入れを楽しむなど、家庭的な雰囲気を有している。職員は利用者の意思を尊重し、その人らしく誇りのある暮らしを継続できるよう支援している。また、職員間の信頼関係が厚く、一体となって日々のケアサービスに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価における課題であった「薬品の保管場所」に関しては、利用者の目の届きにくい場所に変更するなど、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員間で検討し管理者がまとめており、全員で自己評価に取り組んでいる。また、全職員が評価の意義・目的を理解しており、日々のケアサービスを振り返り、更なる質の向上に繋がるよう努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、利用者家族・町内会長・民生委員等が参加している。会議では事業所の活動状況や外部評価の結果等について報告し、活発な意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所内部・外部に苦情相談窓口を設置し、重要事項説明書に明示している。また、家族が来訪時に気軽に意見・要望等を話せる雰囲気づくりに努めている。また、意見等を受けた場合は会議で話し合い、日々のケアサービスに反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の行事に参加したり、散歩時に挨拶を交わすなど、地域との交流を図っている。また、事業所の音楽会に近隣住民を招待するなど、地域と関わる機会を積極的に設けている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り上げ、日常的に地域と交流する機会を設け、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に理念を掲示し、随時確認しながら職員間で話し合うとともに、日々その実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の行事に参加したり、散歩時に近隣住民と挨拶を交わすなど、地域との交流を図っている。また、事業所での音楽会に近隣住民を招待するなど、地域住民と関わり合う機会を設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で話し合い、真摯に自己評価に取り組んでいる。また、課題については、職員会議で協議し、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、利用者家族・町内会長・民生委員等が参加している。会議では、事業所の活動状況や外部評価の結果等について報告し、意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区のグループホーム連絡会や研修会等に参加した際や、相談等で出向いた折に担当者と話す機会があり、連携を図りながらともにサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、事業所便りを家族に送付し、利用者の生活状況を伝えている。また、職員は家族の来訪時に声かけをし、利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族が来訪時に気軽に意見・要望等を話せる雰囲気づくりに努めている。また、家族から意見等を受けた場合は、会議で話し合い、日々のケアサービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等があった場合は、申し送りを徹底し、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を実施し、訪問看護ステーション職員を招き呼吸方法等について学ぶ機会を設けている。また、職員は外部研修にも積極的に参加し、研修受講後は、報告書を回覧したり、ミーティング時に発表するなどし、情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じて交流会や研修会等を実施し、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人・家族に事業所を見学してもらい、話し合う機会を設け、事業所の雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、昔の文化・習慣・作法等を教えてもらうことが多く、一緒に活動しながら支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や表情等から思いや意向の把握に努め、その人らしく生活できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人・家族の意見を取り入れ、職員間でカンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化や、本人・家族の要望に応じてそのつど話し合い、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や外出時の付き添いなど、本人・家族の状況に応じた支援を行っている。また、家族が宿泊できる体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人・家族が希望する医療機関での受診支援を行っている。また、状況に応じて通院時に職員が付き添い、受診結果を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の方針について、入居時に本人・家族の意向を確認し、主治医と連携を取りながら適切に対応している。また、年に1度、家族に対しかかりつけ医が利用者の健康状態等について説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の心情を考慮し、誇りを損ねることのないような言葉かけや対応に徹している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の出来ることを把握し、体調を配慮しながら、一人ひとりの希望を尊重した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じ、食事の準備や後片付け等を職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴する順番等を利用者と相談しながら、週に2回の入浴支援を行っている。また、銭湯に出掛ける機会を設けており、楽しんで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や健康状態等に合わせ、食事の準備・後片付け・買い物などの役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調を考慮し、散歩・買い物・家族との外出など、一人ひとりの希望に応じた外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアの大切さを認識しており、玄関にセンサーを設置するなど工夫し、夜間帯以外は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度、消防署の協力を得ながら避難訓練を実施し、災害時の避難誘導等について学ぶとともに、緊急時対応マニュアルを整備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事・水分摂取量等を把握し、工夫しながら一人ひとりの健康状態に合わせた食事提供を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の窓辺には多数の植木鉢が置かれており、水やりは利用者の楽しみごととなっている。また、居間は広く利用者がピアノを演奏し、皆で合唱するなど、居心地良く過ごせるような空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具等が持ち込まれており、本人が安心して過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。